

リーダーたちの本棚

Leader as Readers

企画・制作 朝日新聞社広告局 広告特集

L 創立50年を迎え 建学の理念を再確認

獨協大学は、今年創立50周年。そのルーツは明治期にさかのぼる。日本の欧米化を象徴する「鹿鳴館」が開館した1883年、ドイツ語とドイツ文化の学習を通して国際人を育てるという理念のもとに「獨逸學協成学校」が創設され、初代校長には近代日本の「哲学の父」と言われた西岡が就任。ドイツより招聘した教員による授業も設けられ、語学、医学、法学、政治学などの学問がさかに行われた。獨協大学の開学は、創立から80年後の1964年。初代学長は、カント哲学研究の第一人者、天野貞祐氏が務めた。

「開学当時はベビーブーマーの受験競争が激しく、その反動か、入学後に学問への熱意を失ってしまう学生も少なくなかった。天野先生はそうした傾向を憂え、入学後にこそ学問に取り組み、専門知識や教養を磨いてほしいと願いました。「入るに易し、出るに難し」が、本来あるべき大学の姿なのだ。そして、「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念を掲げました。この理念は、これまでも、これからも変わりません」

獨協大学は現在、外国語学部、国際教養学部、経済学部、法学部の4学部11学科、大学院3研究科と法科大学院を擁する。教育の柱である「外国語教育」「教養教育」に加え、近年では「環境教育」など、時代の要請に応じた教育にも力を入れている。

目指すは「グローバル人材」の育成

「外国語教育は、単に外国語で会話するための語学教育ではなく、経済や法律、国際関係など専門分野を学ぶ際に必要となる「生きた語学力」を身につけることを目標としています」

専門性の強化の一方で、情報、歴史、心理など、幅広い教養が身につく全学共通のカリキュラムを設置。企業経営者を招いての講義や、与えられたテーマについての議論やプレゼンテーションなど、実践的な学びを提供している。

「大学の使命の一つはグローバル人材の養成ですが、もう一つはCOC (Center of Community)、つまり地域社会の中心になりうるかということがあります。地域の人や自然との共生を考えられなければ、グローバルな感覚も養えないと思います。「グローバル人材」を目指してほしいのです。その思いはキャンパス再編計画にも反映し、建物の低層化、省・創エネ化、敷地内外の緑化、キャンパスのある埼玉県草加市の河川の美化などを推進しています」

犬井学長は、「現場感覚を失わないために自らもゼミを持ち、「リアルな経験が独立した人格を養う」との思いから、農業やエコ研修などフィールドワークを学生たちに推奨している。その成果を、特に東北の震災後に実感したという。

「本学の多くの学生が被災地に赴き、ボランティア活動に従事しました。自分たちができることは何かと自発的に探して汗をかいている彼らの姿はとても頼もしく感じました」

昨今は、大学改革の課題として学長の権限強化が指摘されることが多いが、犬井学長はボトムアップを重視する。

「どういふマンパワーや学内資源があるのか、学生や教職員のあらゆる声を聞き、取捨選択し、決定していきたい。そしてその責任はすべて学長の私が負う。そんなリーダーでありたいと思います」

■朝日新聞社広告局ウェブサイトでは、犬井学長が語るリーダー論を紹介しています。
<http://adv.asahi.com>
朝日新聞 広告 検索



獨協大学 学長 犬井正 さん

犬井正さんのおすすめ本棚

『出家とその弟子』(新潮文庫) 倉田百三 著
恋愛、性欲、宗教の相克の問題について、親鸞とその弟子・善鸞、弟子の唯円が葛藤を軸に「教義抄」の教えを戯曲化した宗教小説の名作。

『人間の条件』上・中・下巻 (岩波現代文庫) 五味川純平 著
1943年の満州、龍山の中国人労働者新首に抗議した主人公・根は、召集免除の特典を取り消され、愛を失って戦地へ。非人間的な世界を人間の生きようとする苦悩し、闘った男の波瀾の物語。

『沈黙の春』(新潮文庫) レイチャル・カーソン 著 青樹隆一 訳
海洋生物学者の著者が、農業など化学物質による人や動物の健康被害、土壌汚染や水質汚染などを告発。初版は1962年。環境運動の端緒となった一冊。

『銃・病原菌・鉄』上・下巻 (草思社文庫) ジャレド・ダイアモンド 著 倉富彰 訳
なぜ人類は五つの大陸で異なる発展を遂げたのか。分子生物学から言語学に至るまでの最新の知見を編み上げて人類史の謎に挑む。ピューリッツァー賞受賞作。

『雑食動物のジレンマ』上・下巻 (東洋経済新報社) マイケル・ボラン 著 ラッセル・秀子 訳
トウモロコシ農場から、肥育場、有機農場、狩猟採集の森までを道い、食べ物の正体を明らかに。そして、著者が最後にたどりついた完璧な食事は？

「出家とその弟子」と全く異なる内容ながら、同じような感想を持った本があります。五味川純平の小説「人間の条件」です。舞台は戦争末期の旧満州中国東北部。様々な無理不都合がまかり通る戦時体制の中で、ヒューマンズたる自分をどう貫くべきか、貫くべきでないのか。主人公は、何度も自問自答します。読んだのは大学2年生の時です。私は当時、第一志望の大学に入れたかった。失望感を引きずり、学問にも学問競争にも背を向け、日夜、器械体操の練習に明け暮れていました。地道な鍛錬が実を結びスポーツを逃げ道にしていたのです。でも、ある晩、学問と教育の道に進もうと決意し、器械体操をスッパリやめました。自分らしい生き方は何かと考へ抜いた結果でした。「出家とその弟子」と「人間の条件」の読書経験が影響していたと思います。学問に戻った私は、教授陣に頼んで単位を取っていた科目もすべて履修し直し、大学院に進みました。卒業論文のテーマは、村落共有地の伐木や採草の権利、いわゆる入会権です。村落共有地の「所有」に関する法社会学研究が多い中、「所有」と「利用」をセットで捉え、歴史の変遷を追いました。

私の研究分野である地理学の世界では、「人間の活動は環境によって決定される」という「環境決定論」が脇に押しやられ、「人間主体で環境から可能性を引き出す」という「環境可能性論」が主流となっていました。そうした中、米国の学者のジャレド・ダイアモンド氏は、地理的要因、つまり環境によって人類の発展に差異が生じたこと、なぜ欧州人が世界を支配することになったのかをグローバルな視点で捉え、著書「銃・病原菌・鉄」で示しました。

宗教、戦争、食、農業、環境……。読書はあらゆる事柄の知識や経験を補う最高の手段です。しかも時空を超えて。若い人はほとんど本を読んで、確固たる自己を築いてほしいと思います。(談)

R わが人生と研究に寄り添う本たち

「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念を掲げ、伝統の外国語教育や教養教育を実践する獨協大学。学長の犬井正さんは、農村地理学や環境学を研究領域とし、現在も教壇に立つ。「食糧問題、環境汚染、森林伐採など、現代の様々な課題について、読書を通じて学べるものがたくさんあります。若者たちに推薦したい書を選びました」

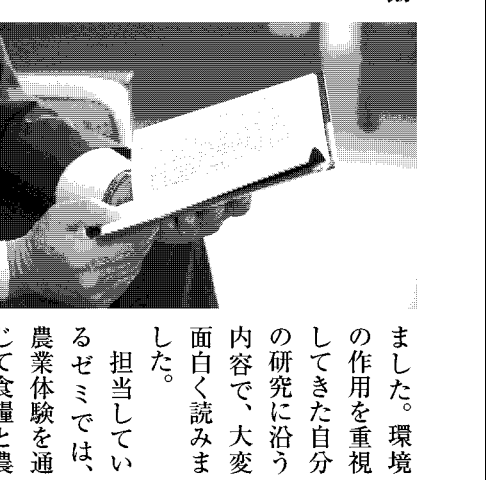
「出家とその弟子」と全く異なる内容ながら、同じような感想を持った本があります。五味川純平の小説「人間の条件」です。舞台は戦争末期の旧満州中国東北部。様々な無理不都合がまかり通る戦時体制の中で、ヒューマンズたる自分をどう貫くべきか、貫くべきでないのか。主人公は、何度も自問自答します。読んだのは大学2年生の時です。私は当時、第一志望の大学に入れたかった。失望感を引きずり、学問にも学問競争にも背を向け、日夜、器械体操の練習に明け暮れていました。地道な鍛錬が実を結びスポーツを逃げ道にしていたのです。でも、ある晩、学問と教育の道に進もうと決意し、器械体操をスッパリやめました。自分らしい生き方は何かと考へ抜いた結果でした。「出家とその弟子」と「人間の条件」の読書経験が影響していたと思います。学問に戻った私は、教授陣に頼んで単位を取っていた科目もすべて履修し直し、大学院に進みました。卒業論文のテーマは、村落共有地の伐木や採草の権利、いわゆる入会権です。村落共有地の「所有」に関する法社会学研究が多い中、「所有」と「利用」をセットで捉え、歴史の変遷を追いました。

この研究を通じて、食糧資源や農業を外部の事象として捉えるのではなく、内なる命の課題として捉え、教育すべきだと思いを強くしました。そうした意識の中で、米国の海洋生物学者のレイチャルカーソンの著書「沈黙の春」を読みました。農業や化学肥料が人や動物や自然に及ぼす影響について警鐘を鳴らし、環境保護運動への関心を高めた書です。私は現在、経済学部でゼミを持ち、食・農・環境について教えています。大学や大学院の頃の研究や読書は、その礎となっています。

業のあり方を学んでもらうだけでなく、学生自身でキャンパス内に田んぼを作り、鳥や虫や気候と関わりながら米を育てているのです。食糧や農業に関する教育の舞台は、主に農学部や理学部ですが、私は文系の大学こそその教育として取り入れるべきだと考えています。人数比率の高い文系の学生たちがやがて家庭や子どもを持った時、人体や生態系に及ぼす影響を顧みず、安んじたい、見てくれがよけりやいという基準で食料を買って求めてほしくないのです。例えば、米国のジャーナリストが著した「雑食動物のジレンマ」を読んでみるといいと思います。抗生物質を与えなければ生きられない畜舎内の家畜飼育、地産地消やフードマイレージを無視した有機農業など、産業化が進む米国の農業産業の実態を明らかにする書です。私はフィールドワークを信条としているので、著者自身が農家で働いたり、狩猟採集を体験したりという姿勢に、自分との共通点も感じました。

「環境決定論」が脇に押しやられ、「人間主体で環境から可能性を引き出す」という「環境可能性論」が主流となっていました。そうした中、米国の学者のジャレド・ダイアモンド氏は、地理的要因、つまり環境によって人類の発展に差異が生じたこと、なぜ欧州人が世界を支配することになったのかをグローバルな視点で捉え、著書「銃・病原菌・鉄」で示しました。宗教、戦争、食、農業、環境……。読書はあらゆる事柄の知識や経験を補う最高の手段です。しかも時空を超えて。若い人はほとんど本を読んで、確固たる自己を築いてほしいと思います。(談)

「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念を掲げ、伝統の外国語教育や教養教育を実践する獨協大学。学長の犬井正さんは、農村地理学や環境学を研究領域とし、現在も教壇に立つ。「食糧問題、環境汚染、森林伐採など、現代の様々な課題について、読書を通じて学べるものがたくさんあります。若者たちに推薦したい書を選びました」



ました。環境の作用を重視してきた自分の研究に沿う内容で、大変面白く読みました。担当しているゼミでは、農業体験を通じて食糧と農業のあり方を学んでもらうだけでなく、学生自身でキャンパス内に田んぼを作り、鳥や虫や気候と関わりながら米を育てているのです。食糧や農業に関する教育の舞台は、主に農学部や理学部ですが、私は文系の大学こそその教育として取り入れるべきだと考えています。人数比率の高い文系の学生たちがやがて家庭や子どもを持った時、人体や生態系に及ぼす影響を顧みず、安んじたい、見てくれがよけりやいという基準で食料を買って求めてほしくないのです。例えば、米国のジャーナリストが著した「雑食動物のジレンマ」を読んでみるといいと思います。抗生物質を与えなければ生きられない畜舎内の家畜飼育、地産地消やフードマイレージを無視した有機農業など、産業化が進む米国の農業産業の実態を明らかにする書です。私はフィールドワークを信条としているので、著者自身が農家で働いたり、狩猟採集を体験したりという姿勢に、自分との共通点も感じました。

千代田区飯田橋3-3-1
○詳細は⇒<http://www.mikasashobo.co.jp>
○(株)ブックライナー(フリーダイヤル)0120-398899(9:30~19:00)からご購入いただけます。

おかげさまで 知的生きかた文庫 30周年!!

最新刊 & ベストセラー

超訳 菜根譚 さいこんたん
人生はけって難しくない 境野勝悟
読み込めば読み込むほど、「生きるチカラ」になる!
ISBN978-4-8379-8233-4 ●定価(本体571円+税)

吉田松陰 楠戸義昭
「人を動かす天才」の言葉
志を立てることから、すべては始まる
ISBN978-4-8379-8235-1 ●定価(本体590円+税)

3刷 日本は外国人に どう見られていたか
来日外国人による「ニッポン 仰天観察記」 「ニッポン再発見」倶楽部
ISBN978-4-8379-8294-4 ●定価(本体590円+税)

4万部 バカになれる男の魅力
男の価値は「ここ」で決まる 潮尻洋介
Yosuke Shionagi
ISBN978-4-8379-2550-7 ●定価(本体1000円+税)

最新刊 ノーベル賞受賞!
青色LED・中村修二、「夢実現」の人生哲学!

あなた、頑張り方は間違っていないか!
考える力、やり抜く力、私の方法
ノーベル賞受賞の大発明を可能にした世界のナカムラマジック
カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授/工学博士 中村修二
ISBN978-4-8379-1872-1 ●定価(本体1400円+税)

脳のレベルが一気に上がる
簡単に楽しい
「未来派学習法」

光の速読法と記憶法が5日間で身につく本
栗田昌裕 医学・薬学博士

読後、あなたの能力の変化は「スグ」に現われます!
ISBN978-4-8379-2561-3 ●定価(本体1300円+税)

本がいままでの10倍速く読め、最速で大量の情報を記憶できる技術

光の速読法と記憶法5日間
あなたの能力の変化は「スグ」に現われます!

若返りホルモン DHEA が 若さを決める!

40代からの 太らない体の 作り方
医学博士 満尾正
23万部!

結局、人生は「見た目」です!
★何よりも「野菜を食べる」
★「1分間・120メートルの速さ」で歩く
★「体の中の太るゴミ」を正しく出す
★寝る前に「ストレスをゼロにする」
この4つだけでガラリと変わる!

ISBN978-4-8379-2563-9

PC・スマホ・タブレット対応!
<http://www.mikasabooks.jp>